

2021/12/23

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会 【第5回新大阪駅東口まちづくり部会】

【content】

- 1.新大阪東口まちづくりビジョンの検討フロー
- 2.まちづくりの考え方
- 3.まちづくりの進め方
- 4.まちづくりビジョンの検討
- 5.今後の進め方

1. まちづくりビジョンの検討フロー

まちづくりの考え方 P2～7

- これまでの部会での意見、ニーズ
- 東淀川区西部地域バリアフリー構想
- 第2期東淀川区保健福祉計画
- 新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会
- 基本的な考え方

まちづくりの進め方 P8～12

- 先導的なまちづくりの検討範囲
- 活用対象未利用地について
- 地域と一体的に進める持続可能なまちづくり
- 拠点エリアの開発による持続可能なまちづくり

新大阪東口まちづくりビジョンの検討 P13～17

- 東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想の実現に向けた取り組み
- 都市再生の動きを活用したまちづくり
- 「ひと」と「まち」をつなぐ
- まちづくりの方向性のまとめ

2.まちづくりの考え方

2. まちづくりの考え方

・これまでの部会での意見、ニーズ

■第2回新大阪駅部会で確認した内容

地域からの提案

- ・「人権を尊重するまちづくり」という方向性で進めたい。
- ・「大阪の玄関口にふさわしいまちづくり」を目指したい。
- ・住民参加でまちづくりを計画したいという思いがある。
など

新大阪駅東口のまちづくりのテーマ

- ・大阪・東淀川区の玄関口にふさわしいまちづくり
- ・人権を尊重する人にやさしいまちづくり
- ・駅に近接する幹線道路沿道にふさわしいまちづくり

■第3回新大阪駅部会で確認した内容

新大阪駅東口の課題

- ・道路整備等に伴う人・車の動きの変化
- ・市営住宅等の建替え・廃止に伴う跡地の土地利用
- ・高齢者の単身世帯の増加
- ・地域活動団体の担い手の高齢化
- ・忌避意識の解消
- ・保健福祉、地域住民目線のまちづくりの継続
など

広域視点のまちづくりの動き

- ・リニア中央新幹線、北陸新幹線など広域交通ターミナル整備の検討
- ・都市再生緊急整備地域の指定による土地の高度利用の検討

2. まちづくりの考え方

・西部地域バリアフリーまちづくり構想（H30. 3）

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想

基本理念 （まちの将来像）

「みんなで
つながる
ふだん暮らしのまち」

基本目標 （まちづくりの基本方針）

地域のつながりによる 安全・安心づくり

地域住民の高齢化、単身世帯の増加及び子育て世帯の孤立など、だれもが孤立しない地域をめざします。

そのため、見守り、見守られる関係づくりや、地域での居場所づくりなど、子どもから高齢者まで、あらゆる人が地域の中の豊かなつながりのもと、安心して暮らせる環境づくりに取り組みます。

だれもが住みやすく 楽しく暮らせるまち

「みんなで つながる ふだん暮らしのまち」を実現するには、あらゆる差別を解消し、年齢や性別、価値観、障がいの有無などを越えた「人と人とのバリアフリー」をめざす必要があります。

そのため、人と人をつなぐ垣根を越えた関係づくりや、ハード・ソフト両面のバリアフリー、若い世代や女性なども地域活動に参加しやすい環境づくり、多様な世帯が住み続けられる住宅・住環境の充実などに取り組みます。

関西各地につながる 便利・快適なまち

西部地域は、関西各地につながる交通結節点となることで、全国また世界各地から人が訪れる場所になります。その中でも、住民がこれまで通り暮らし続けられる地域を前提とし、その上で、大阪の玄関口として、まちに人呼び込み、出会いや交流などの相乗効果を生み出すまちをめざします。

そのため、これまでの歴史や文化資源、にぎわいある商店街などの人的資源などを活かしながら、地域に「行ってみたい」と感じられる魅力づくりや「住みたい」と感じられる、便利・快適な住環境づくりに取り組みます。

実現したい暮らし・まち （まちづくりのテーマ）

第三の居場所づくり・孤独を作らない

家庭や職場、学校以外に「第三の居場所」となる拠点を増やして高齢者から子どもまで地域のつながりを生み出し、孤立することがない仕組みづくりに取組みます。

子育てがしやすい・子どもの孤食をなくす

働きながら子育てがしやすく、子どもがのびのびと育つ環境づくりなどを通して、子どもが一人で食事をすることがない地域をめざした、取組みを進めます。

高齢者が安心して暮らせる

高齢単身世帯の増加が見込まれる中、高齢者が移動や買い物などに不自由することなく、安心して暮らし続けられる地域をめざした、取組みを進めます。

誰にもやさしいユニバーサルデザイン

新たに整備される施設のハード面のバリアフリーだけでなく、手助けを必要とする方への声かけや心遣いなどソフト面でのバリアフリーにも取組みます。

楽しい地域活動ができる

地域活動の担い手不足の解消に向けて、新たな世代が気軽に参加できる組織づくりと、新たな地域活動が継続する仕組みづくりに取組みます。

人と人をつなぐ垣根を越えた関係

だれもが地域の一員として受け入れられ、その人が、その人らしく、ありのままに暮らせる地域をめざし、人権を尊重するまちづくりに取組みます。

多様な世帯にとって住みよい住環境

多様な世帯が住む活気ある地域をめざし、ファミリー世帯や高齢世帯、学生などをはじめ、様々な世帯が住みやすい住宅の確保と魅力ある住環境づくりに取組みます。

世界各地から人が集まり交流が生まれるまち

新大阪駅東口、淡路駅など大阪から世界に繋がる玄関口にふさわしいまちづくりとともに地域住民が住み続けられるまちとして、バランスを図りながら取組みます。

歴史や文化を尊重するまち

これまでの地域の成り立ちや歴史資源を大切にするとともに訪れた人が懐かしいと感じられる雰囲気や大切に、ふだん暮らしのまちをめざした取組みを進めます。

アクションプラン

テーマ毎の活動方針

【まち・施設の整備】

- ・様々な災害に対して強いまち
- ・保育所、幼稚園、子育て施設の充実
- ・多様な世帯構成に対応した住宅の確保
- ・駅前の交通結節点の強化、駅間の移動手段
- ・住宅地と生活施設をつなぐ交通手段
- ・大型店舗、コンビニなどの商業施設
- ・駅ナカ施設の充実

【空間づくり・場づくり】

- ・明るい駅前空間（交番、街灯、建物）
- ・様々な人が集まれる地域の居場所づくり
- ・だれもが安全に利用できる駅前歩行空間
- ・お年寄りがちょっと休憩できる空間
- ・大人の目が届く子どもの遊び場
- ・子どもの第三の場所（学校・家庭以外）
- ・歩きやすくなるまち（商店主との交流など）

【地域活動】

- ・障がい者にやさしいソフト面の取り組み
- ・若い世代が活躍できる「楽しい」地域活動
- ・スポーツや趣味など垣根を越える地域活動
- ・地域の行事・文化の継承
- ・子どもの見守り活動
- ・商店街のコミュニティビジネスへの支援

【情報発信】

- ・情報発信・情報化に対応
- ・高齢者への情報伝達
- ・情報発信・にぎわいづくりに対応
- ・歴史文化施設へのスポット、情報発信

【環境づくり・組織づくり】

- ・地域で互いに見守りができる関係づくり
- ・社会的な孤立を防ぐ仕組みづくり
- ・地域内で住み替えができる住環境づくり
- ・若い世代が参加しやすい環境づくり
- ・地域活動に参加しやすい環境づくり
- ・地域に入りやすい環境づくり
- ・女性も決められ、男性も動ける組織づくり
- ・「つなぎ役」を増やす環境づくり
- ・商店街の結束、後継者育成

2. まちづくりの考え方

・ 第2期東淀川区地域保健福祉計画（抜粋）

計画の基本理念

大阪市では、平成 30（2018）年 4 月に策定された「大阪市地域福祉基本計画」において、「地域共生社会」や、「大阪市基本構想」の都市像をめざし、暮らし、働き、学び、訪れる地域で、住民や行政をはじめ、地域に関わるすべての人が、共に地域福祉の推進に取り組んでいくために、だれもがわかりやすく、共有できる基本理念として、「だれもが自分らしく安心して暮らし続けられる地域づくり」を掲げています。

本区においても、大阪市の基本理念を踏襲し、地域保健福祉を推進していきます。

**だれもが自分らしく安心して
暮らし続けられる地域づくり**

Ⅱ基本目標 1 助け合い・支えあえる地域コミュニティづくり

近所づきあいや地域活動の参加には、福祉への関心や地域への愛着との関係がみられることから、住民同士や地域の団体との交流を支援し、助け合い、支え合う福祉意識の醸成を促進することで、地域の課題に関心を持ち、自ら参画し、解決につなげられる地域づくりを推進します。

Ⅱ基本目標 2 区民の困りごとを受け止める総合相談機能の構築と支援

ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、障がい者、ひとり親家庭などが抱える課題、また、ダブルケアや生活困窮など地域における生活課題は複雑化・多様化し、複合化が指摘されています。そのため、関係機関と連携した身近な地域での相談体制を充実し、福祉サービスの充実や包括的で専門的な支援につなげる仕組みを構築していきます。

Ⅱ基本目標 3 「地域力」を活かした安心・安全な支え合いのまちづくり

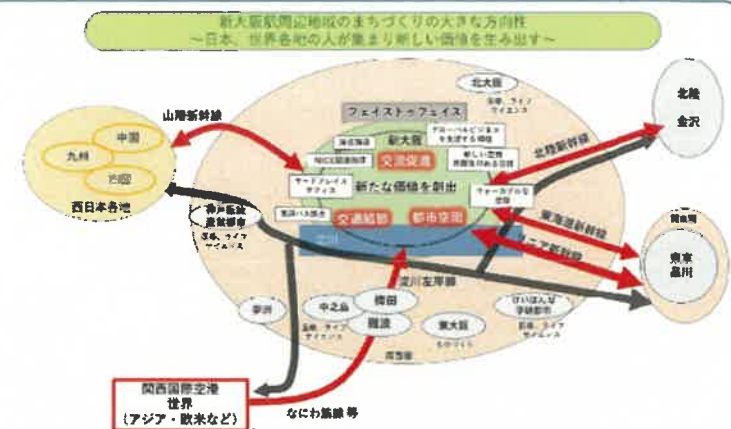
地域でいつまでも安心して暮らせるよう、「地域は地域で守る」という考えのもと、見守りが必要な人が緊急時や災害時に孤立しないよう、日頃からの見守り体制の充実や、災害時に備えた安心・安全な地域づくりのための支援体制づくりを推進します。

2. まちづくりの考え方

・新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会会議の検討

新型コロナ危機を契機とした社会変化への対応の必要性

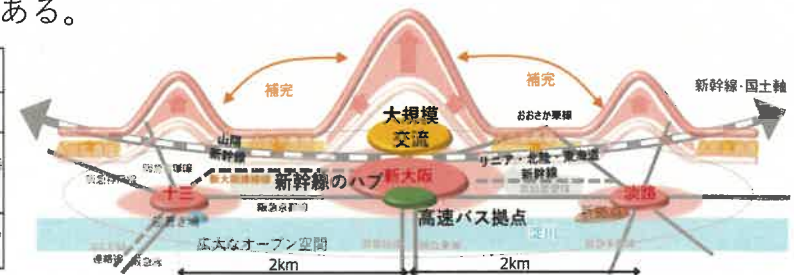
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、「三つの密」の回避、不要不急の外出の自粛、イベントの開催制限等が行われ、在宅勤務・テレワークが進んだ。オンラインの社会への普及が加速され、移動しなくともできることが増え、都市の拠点においては、人の過密に対する内在リスクが顕在化してきている。
- ・ こうした点を踏まえて、フェイストゥフェイスをキーワードとして広域の人を集めるという、これまでの新大阪駅周辺地域のまちづくりの方向性について、整理する必要がある。



3つのエリアの役割分担による都市機能の集積イメージ

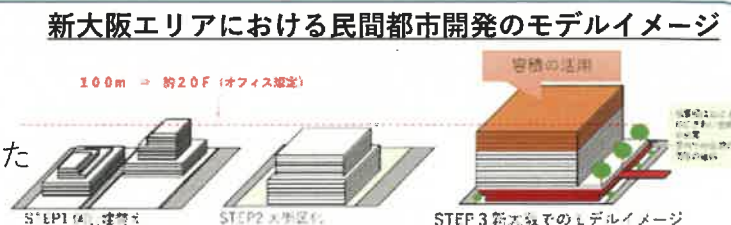
- ・ 新大阪エリアの交流促進・交通結節・都市空間の3つの機能の質と量が高めることが重要であり、十三・淡路のサブ拠点化にも大きな効果をもたらすため、駅とまちが一体となって、官民連携して、駅からまちへ人を惹き出し、まちから駅へ人を惹きつけ、まちとしての総合的な魅力を高めることが重要である。

	十三エリア サブ拠点	新大阪エリア メイン拠点	淡路エリア サブ拠点
交通結節機能	・新大阪駅へつなぐサブのハブ機能	・広域交通の交通結節施設（高速バス拠点等含む） ・駅から周辺のまちをつなぐ	・新大阪駅へつなぐサブのハブ機能
交流促進機能	・新大阪を補完するオフィス・宿泊機能 ・商店街などのにぎわい	・大規模交流施設 ・企業の本社・支店・サードプレイスオフィス ・ハイグレードな宿泊機能 ・歩行者動線沿いの交流空間（商業・文化）	・新大阪を補完するオフィス・宿泊機能 ・商店街などのにぎわい
都市空間機能	・なつかしきや愛着の空間 ・淀川の自然を活かした空間形成（河川敷、船着き場） など	・新大阪駅からまちへの演出（光・水・緑） ・連続したウォーカブルな空間 ・屋内オープンスペース など	・阪急高架下と大規模開発用地における新拠点の賑わいやゆとり



民間都市開発へ期待する主な内容

- ・ 大街区化なども含めた一定のまとまりをもった高機能な都市開発
- ・ 低層部における人のにぎわい、うるおい空間の充実と、独自性の創出
- ・ 屋内の公共的空間、ピロティ空間などによる風雨、猛暑などに対応した人にやさしい空間づくり



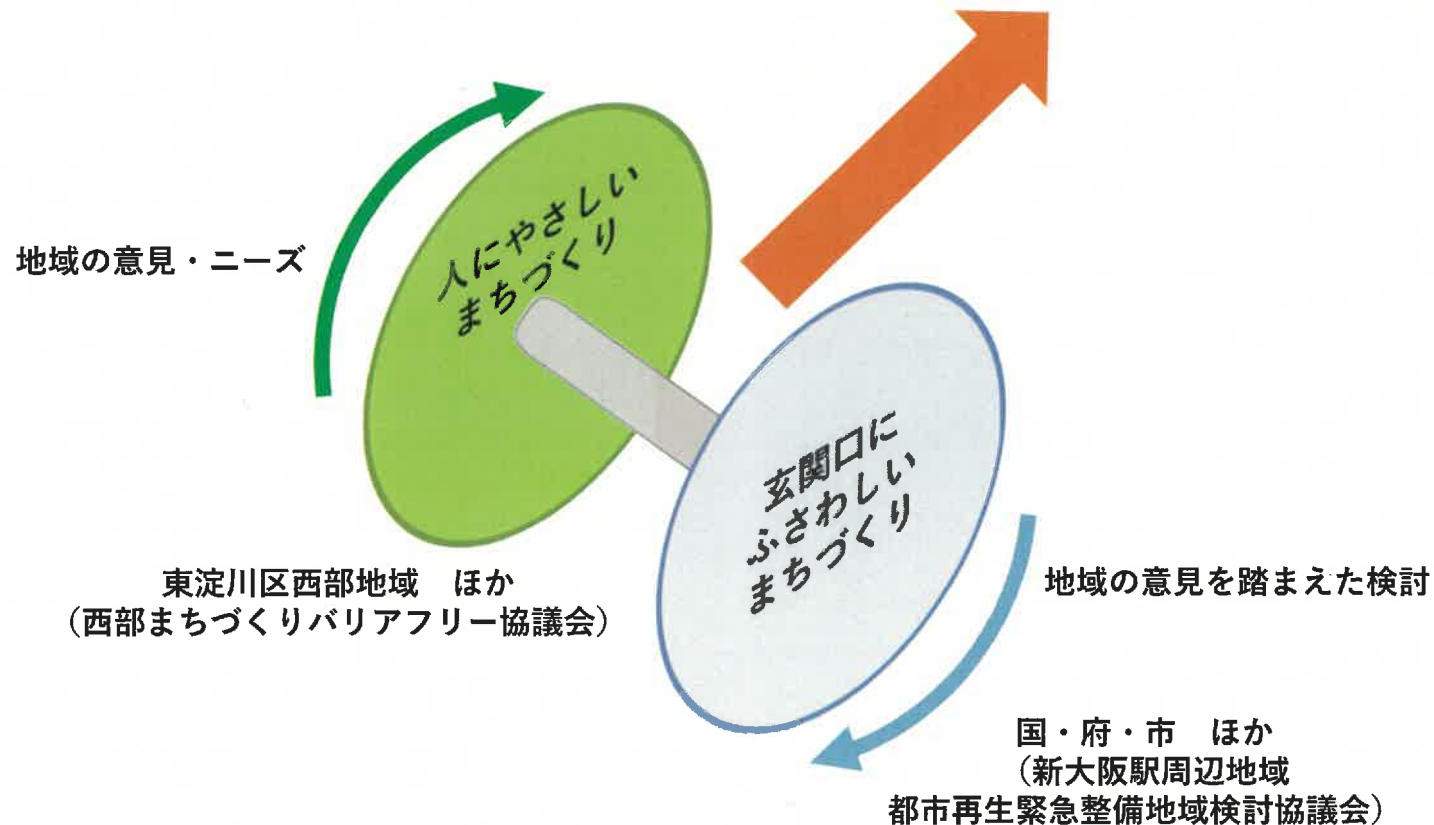
2. まちづくりの考え方

・ 基本的な考え方

「新大阪東口のまちづくりを支える両輪」

○「玄関口にふさわしいまちづくり」と「人にやさしいまちづくり」の2つ視点があることでまちづくりが進んでいく。

新大阪駅東口のまちづくりの目標に向けて

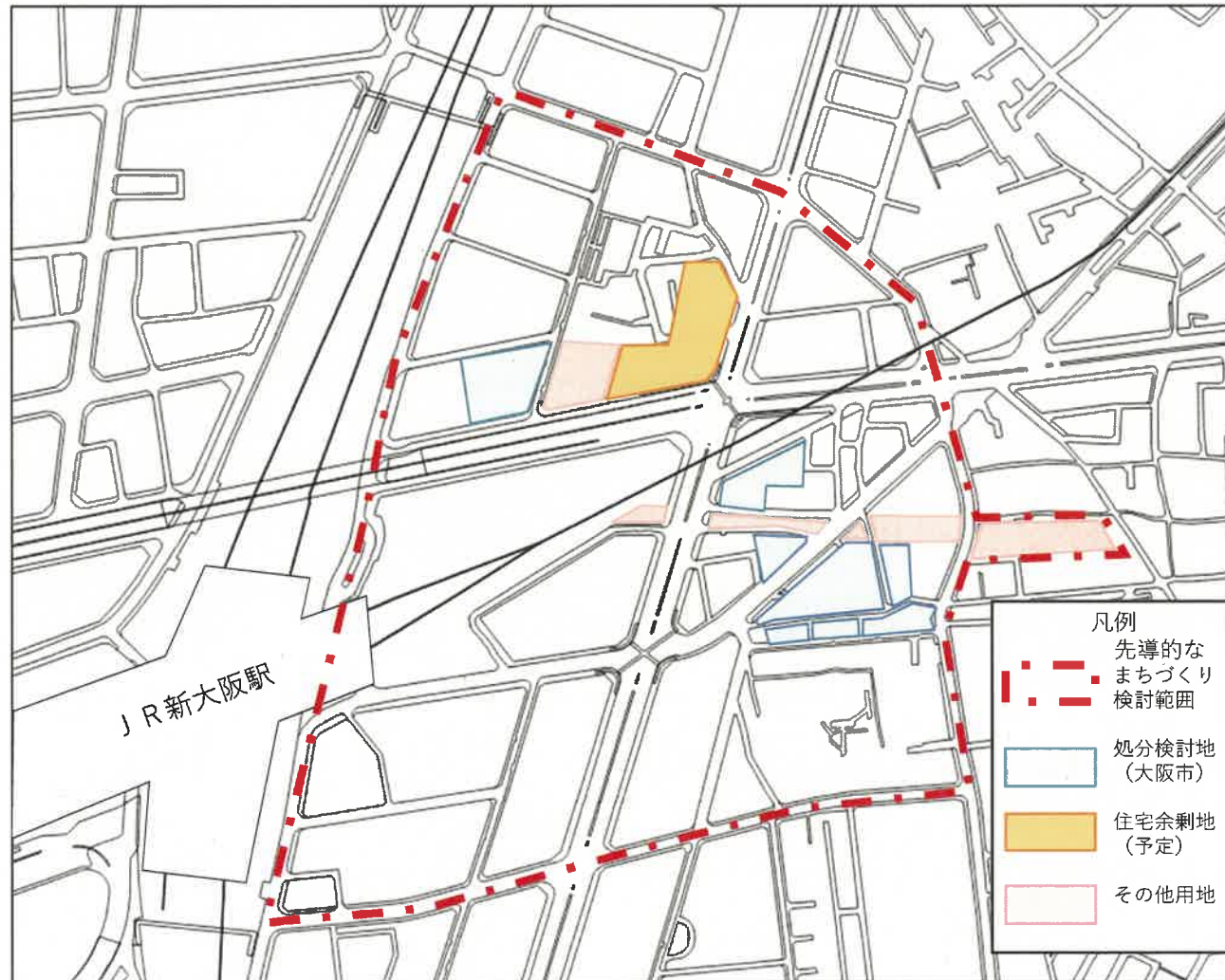


3.まちづくりの進め方

3. まちづくりの進め方

・先導的なまちづくりの検討範囲

・先導的なまちづくり検討範囲は新大阪駅東口から概ね0.5kmの半円内とする。



※検討範囲に含む余剰地については案Cのイメージで作成しています

3. まちづくりの進め方

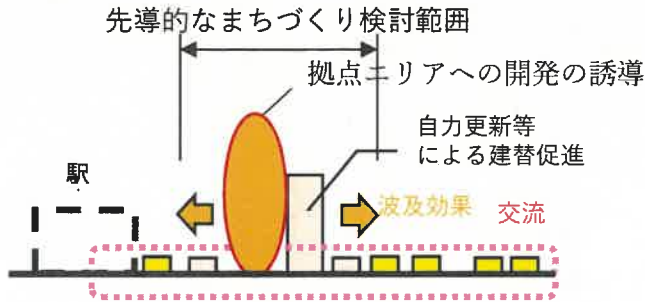
・活用対象未利用地について

・第4回新大阪部会にて区役所から余剰地案を3案提案し、各案の特徴を確認した。

現状	変更（案A）	変更（案B）	変更（案C）
			
まちづくり用地面積	約5,600㎡	約5,200㎡	約5,400㎡
まちづくりのポテンシャル	第1種住居地域に属する用地面積が多い	第1種住居地域に属する用地面積が多い	商業地域や幹線道路に接する用地割合が多い
	・ゆずり葉の道にまちづくり用地へ出入りする交通量の負担が増える恐れがある	・ゆずり葉の道にまちづくり用地へ出入りする交通量の負担が増える恐れがある	・幹線道路からのアクセスのみでまちづくり用地の活用が可能

3. まちづくりの進め方

・地域と一体的に進める持続可能なまちづくり

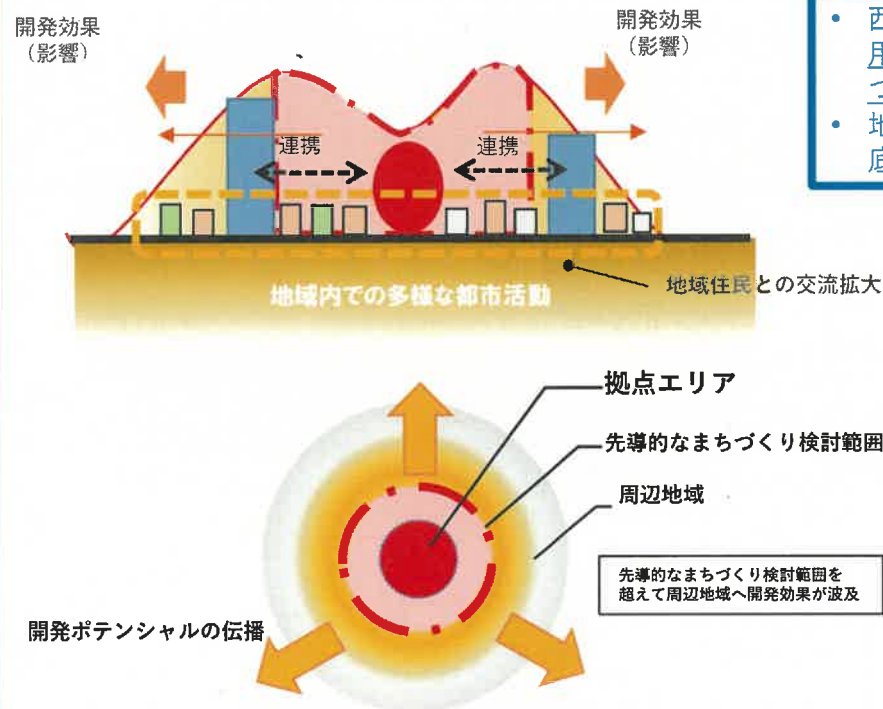
	地域と一体的に進める持続可能なまちづくり（緩やかな開発）
まちづくりの進め方	・ 未利用地や空閑地に周辺地域と連携する拠点施設を先導的に誘導 ・ 周辺地域に交流や連携を波及させながら、住民や既存施設の自立更新や機能更新を促し、緩やかにまちづくりを進める。
効果	・ 住民や既存施設（これまでの生活環境）との共存 ・ 開発による波及効果での交流や賑わいの創出 ・ 自力更新やまちの機能の更新の促進
留意点	・ まち全体が更新されるまでは長期間を要する ・ 施設誘導にあたって事業性への配慮が必要 ・ 緩やかな開発であり統一的な開発が（方向付け）が困難
イメージ	

3. まちづくりの進め方

・ 拠点エリアの開発による持続可能なまちづくり

西部地域まちづくり構想の実現 + 新大阪駅東口の未利用地等の活用
＝ 「拠点エリアの開発による持続可能なまちづくり」

拠点エリアによる波及効果イメージ



- ・ 西部地域まちづくり構想の実現に向け、新大阪駅東口の未利用地等の活用により拠点エリア開発を促進し、先導的なまちづくり検討範囲、さらには周辺地域へ開発効果を波及させる
- ・ 地域全体のポテンシャルを向上させ、地域住民の生活基盤を底上げし、地域の持続可能なまちづくりの促進につなげる

例えば・・・

- ・ 拠点エリアにオフィスを誘導し、さらに中小企業や起業家の入居などが進めば、地域に居住しながら地域で働く人々の増加を促進し、交流も生まれる
- ・ 地域で生活する人々の増加が地域を活性化させ、ファミリー層を含む多様な世代の多様な人々が活躍し生活する地域となる
- ・ 低層階を中心に交流の場や生活関連施設が配置されることで、地域住民の利便性向上や交流促進につながる
- ・ 地域に根差した住民や企業の増加により、地域活動の活性化と世代間交流が促進される

など

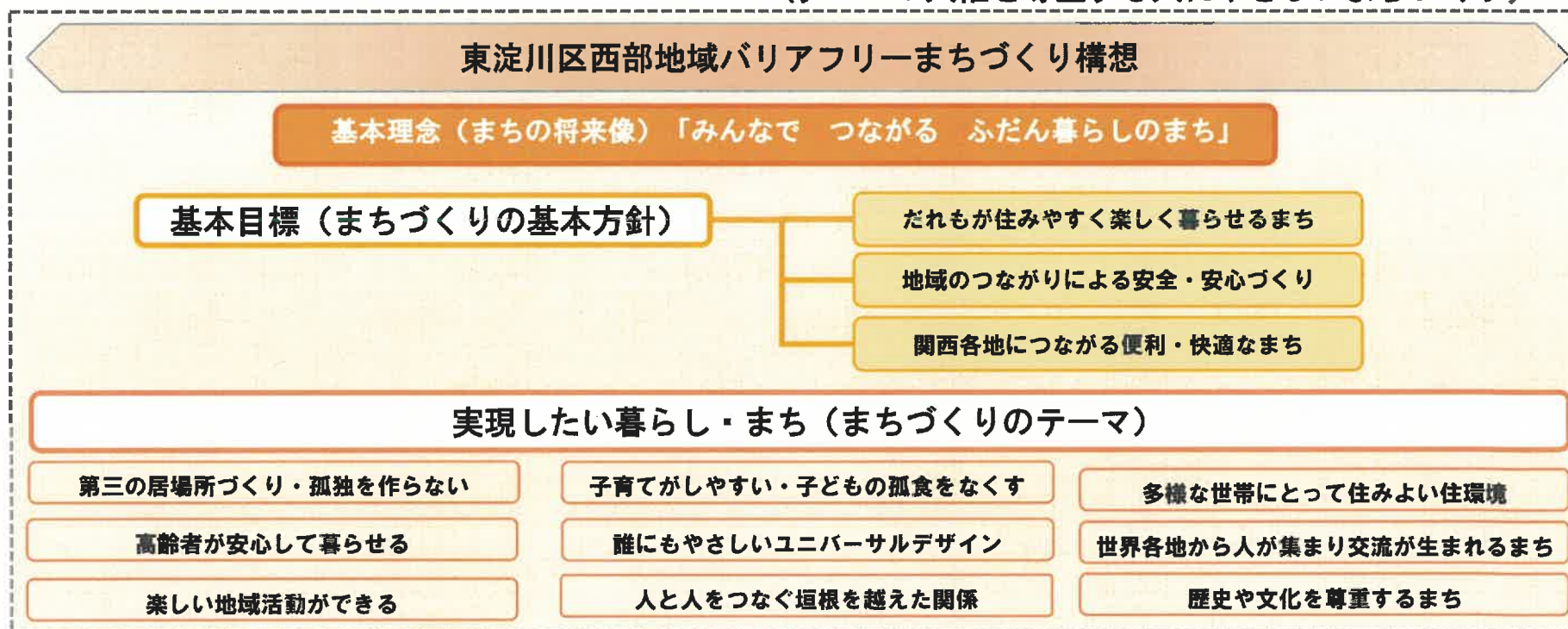
- ・ 多様な人々が生活し活動する交流のまちを具体化するため、拠点エリアの開発によりその効果を波及的に広げ、地域との共生やにぎわいと交流のまちづくりを促進する

まちづくりビジョンの検討

4. まちづくりビジョンの検討

- ・東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想の実現に向けた取り組み

(テーマ：人権を尊重する人にやさしいまちづくり)

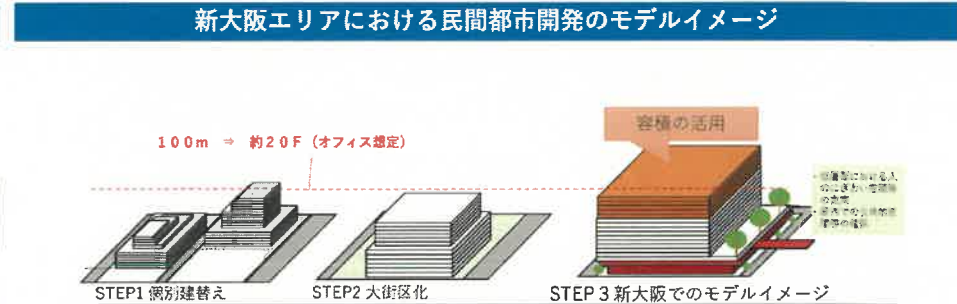
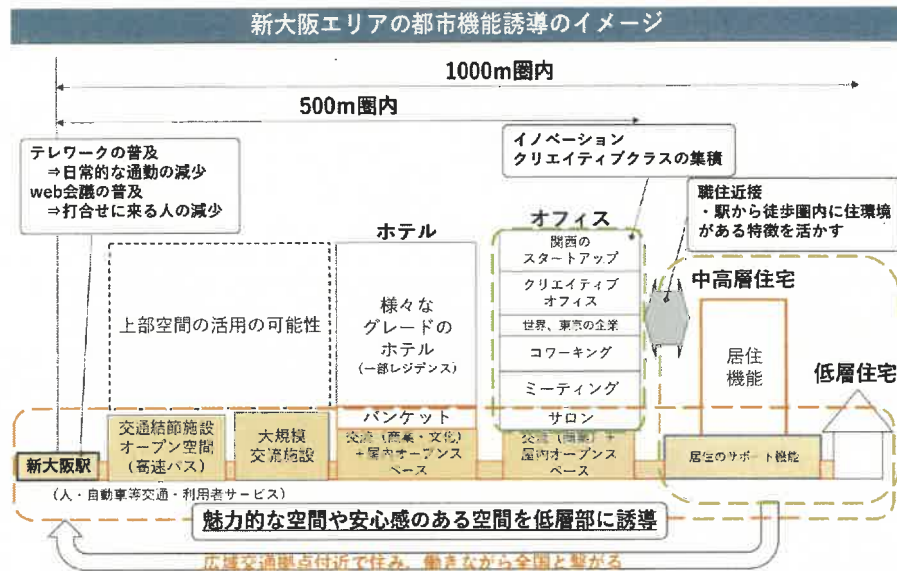


地域の人々が生活し活動する共生社会

- 地域に住まう多世代・多様な人々の生活を豊かにする、人権を尊重する共生社会を目指した持続可能なまちづくり
- 人々が行き交い、各地から集まり、地域の人々と豊かにつながりあえる交流の場
- 歴史と調和し、世代間の交流が活発となる、生活に根差した地域の交流空間

4. まちづくりビジョンの検討

・都市再生の動きを活用したまちづくり（テーマ：大阪・東淀川区の玄関口にふさわしいまちづくり）



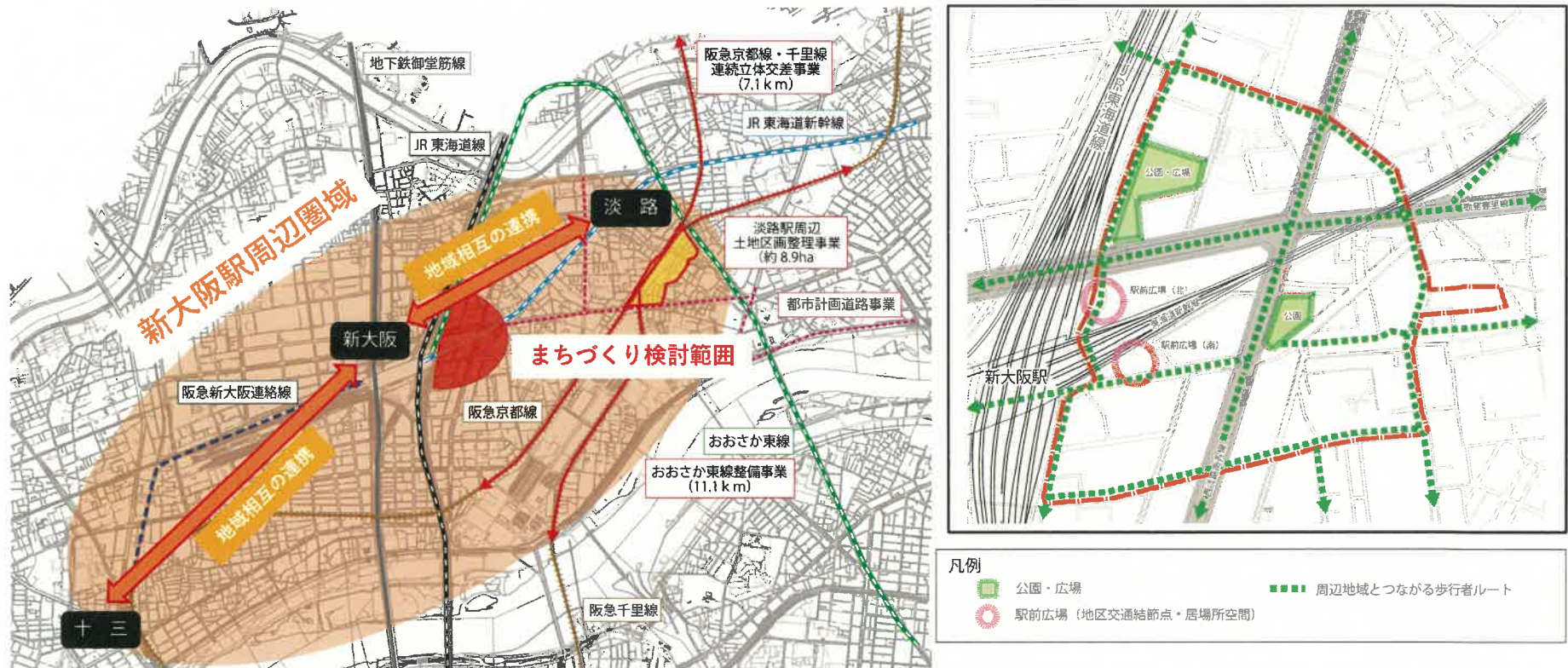
社会変化	影響	新大阪のまちづくりの検討の際に配慮すべき視点(例)	具体的な内容の例
在宅勤務 テレワーク	電車通勤の減少 日常的に働く場としての オフィス需要の減少 出社の必要性の認識	<徒歩圏に住環境がある特性を活かす> 新大阪駅周辺地域での徒歩圏の駅職住近接・定着 (新大阪・十三・淡路の3エリアの効果的な役割分担) <新たなニーズをよびおこす> クリエイティブな人材の集積、web会議のホスト会議室 <オフィスの必要性の再認識> 社員教育、アイデア出し、コミュニケーションの場の提供	オフィスの多様化(クリエイティブ オフィス、テレワーク拠点、コワー キング) まちとしての空間の魅力、淀川の空 間活用 住機能の強化
Web会議	出張の減少	<リアルでないとできないことを集める> 意見交換、新商品の体験、企画会議、契約	交流するための契約・体験などの目 的の創出、機能の強化
Eコマース	実店舗での商品の購 入が減少	<収益構造の変革の推進等> 五感へ訴求する体験の場、そこでしか手に入らない物の提供	体験型、参加型、オリジナリティ、 ショーケース
空間	密な空間のリスク	<オープンスペースの重要性> ゆとりのある空間、安心感のある空間	広がり、高さに余裕のある空間

多様な人々が活躍する大阪の玄関口

- 玄関口にふさわしく、人が集まるための環境の強化を図り、地域の活性化を促進
- 新大阪駅に近接する地域特性を活かし、クリエイティブに多様な人々が活躍する持続可能なまち
- 職住近接のまちと技術革新が描く、新たな働き方と日常生活のかたち
- 新大阪駅を利用する人々が立ち寄り、東淀川区・淀川区からアクセスしやすい交流拠点
- 魅力的な空間や安心感のある歩きたくなる歩行者空間のネットワーク

4. まちづくりビジョンの検討

- ・「ひと」と「まち」をつなぐ（テーマ：駅に近接する幹線道路沿道にふさわしいまちづくり）



地域とつながり全国へつながる

- 周辺地域とつながる歩行者ネットワークにより、当地区を経由した周辺地域とのアクセス性を向上させ、利便性向上と交流を促す
- 東口の南北に位置する交通広場の再編により、周辺地域からのアクセスや乗り換え利便性を向上させるとともに、新大阪駅周辺（十三～淡路）の拠点として地域相互の連携を促す
- 新大阪駅との動線を確保することで、全国につながる地域の特性を強化する

4. まちづくりビジョンの検討

・まちづくりの方向性のまとめ

まちづくりの目標

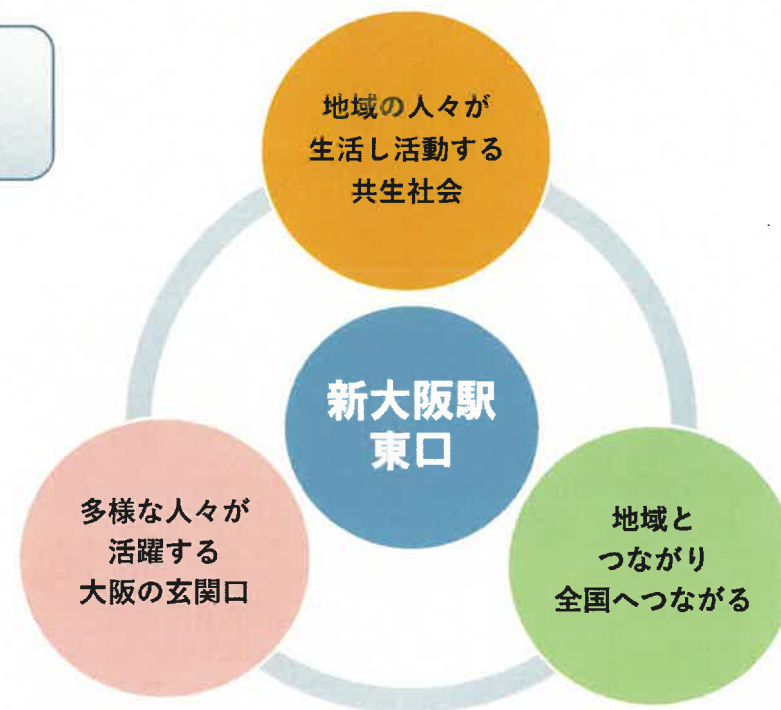
地域との共生、にぎわいと交流をめざす

地域の人々が生活し活動する共生社会

- 地域に住まう多世代・多様な人々の生活を豊かにする、人権を尊重する共生社会を目指した持続可能なまちづくり
- 人々が行き交い、各地から集まり、地域の人々と豊かにつながりあえる交流の場
- 歴史と調和し、世代間の交流が活発となる、生活に根差した地域の交流のまち

多様な人々が活躍する大阪の玄関口

- 玄関口にふさわしく、人が集まるための環境の強化を図り、地域の活性化を促進
- 新大阪駅に近接する地域特性を活かし、クリエイティブに多様な人々が活躍する持続可能なまち
- 職住近接のまちと技術革新が描く、新たな働き方と日常生活のかたち
- 新大阪駅を利用する人々が立ち寄り、東淀川区・淀川区からアクセスしやすい交流拠点
- 魅力的な空間や安心感のある歩きたくなる歩行者空間のネットワーク



地域とつながり全国へつながる

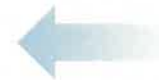
- 周辺地域とつながる歩行者ネットワークにより、当地区を経由した周辺地域とのアクセス性を向上させ、利便性向上と交流を促す
- 東口の南北に位置する交通広場の再編により、周辺地域からのアクセスや乗り換え利便性を向上させるとともに、新大阪駅周辺（十三～淡路）の拠点として地域相互の連携を促す
- 新大阪駅との動線を確保することで、全国につながる地域の特性を強化する

5.今後の進め方

5. 今後の進め方

- 第4回 新大阪部会（2020.10月）

- ・余剰地の提案
- ・まちづくり範囲
- ・調査スケジュール の提案



12月 西淡路地域説明会

- 第5回 新大阪部会（2021.12月）

- ・まちづくりの方向性（まちづくりビジョン）について協議



市民アンケート

- 第6回 新大阪部会（2022.02月）【予定】

- ・新大阪駅東口まちづくりビジョン策定 → 3月協議会で報告

2022年度

- ・検討対象用地の活用方策の検討
- ・新大阪駅東口まちづくり基本計画の検討

※ 北陸新幹線やリニア中央新幹線計画の具体化などのタイミングを踏まえてビジョンを更新し、状況に応じたまちづくりを進める

5. 今後の進め方

・拠点エリアの民間活用について

⇒新大阪駅東口の持続可能なまちづくりを促進するため、ビジョンに沿ったまちとなるよう開発の誘導を検討する

例えば・・・

- ・ 交通利便性を活かした業務・宿泊・商業などのビジネス系機能
(テレワークやコワーキングなどニューノーマルへの対応含む)
- ・ イノベーション創出機能など
(スタートアップ企業やクリエイティブオフィス向けの業務フロア)
- ・ 商業・生活利便・公益施設など生活中心の地域の基本機能
(物販・飲食や医療等の生活支援施設や学習・運動等の利便施設など)
- ・ 魅力的な空間や安心感のある歩きたくなる歩行者空間ネットワーク
(低層階における店舗展開や幅広い歩行空間)